

(4) 特別支援教育研究会 (特別支援学級)

会 長 大野 理絵 (中村中学校)
副会長 坂井 真理 (中村西中学校)
事務局 依岡 遼 (八東小学校)

1. 研究主題 「特別な支援を必要とする子どもたちが生き生きと学べる授業づくり」

2. 研究経過

実施年月日	研究のあらまし	会場	備考
令和7年 5月7日(水)	四万十市教育研究会 組織総会	中村中学校	14名参加
令和7年 6月10日(木)	第1回 サークル連絡協議会	四万十市 教育研究所	
令和7年 8月1日(金)	四万十市教育研究会 夏季研修会 内容：講義、協議 「児童生徒の障害の特性に配慮した具体的な指導 方法や効果的な授業づくりのための指導上の工夫 または実践例」 」 講師：奥宮智子指導主事 (西部教育事務所) 日程： 8：45 受付 8：50 講義 10：20 質疑応答 10：30 演習 11：30 閉会	中村中学校	13名参加

3. 各教科外・領域、各種部会で独自に項を起し取組を紹介

今年度は、「特別な支援を必要とする子どもたちが生き生きと学べる授業づくり」を目指し、西部教育事務所の奥宮智子指導主事にご講話いただいた。

先生方が日頃感じている困り感等を奥宮指導主事にお伝えし、当日は、「児童生徒の障害の特性に配慮した具体的な指導方法や効果的な授業づくりのための指導上の工夫または実践例等」と題して、特別支援学級の教育過程、障害理解と支援方法、自立活動の指導の充実に向けて研修を行った。

特別支援学級の教育課程については、自立活動の意義や位置づけ、指導方法について学んだ。活動ありきではなく、各教科等の力をつけること、また、教科の内容が子どもの課題に即しているかを精査することなど、具体的な留意点を再確認し、指導方法を見直す契機となった。

障害理解と支援方法については、知的障害、自閉症、情緒障害の子どもたちの学習上または生活上の特性等を具体的に教えていただいた。衣服の着脱の指導や、読み書き等の教科等の指導など具体例も交えながら、実際の生活場面に即して繰り返し学習することの大切さや、スモールステップで段階的な指導をしていくことの重要性を改めて認識することができた。

また、講義後は複数のグループに分かれ、担当している児童の様子や困り感、支援方法などについて協議を行った。協議の中では、1学期は、対象児童とのコミュニケーションや互いに慣れることへ

意識が集中し、児童の「意欲を高める」「自信を持って取り組む」などの気持ちを優先して考えることができていなかった、「活動ありき」で指導していることが多かったと反省したという意見があり、共通の目標に向かって、互いの意見を深め合う貴重な場となった。「2学期からは、生徒の特性に注意し、中心課題を焦点化し、実際の生活場面に役立つ内容を、詳細で段階的に行うことを忘れずに指導していくようにしたい。」という感想もあり、理解が深まる研修となった。

4. 今年度の成果と課題

(成果)

「教育課程・基本の理解について」

- 特別支援教育の教育課程を改めてお聞きすることによって、基本を見直すことができた。
- 教育課程について、とてもわかりやすく丁寧に講話していただいたため、あいまいだった部分が明確になりとても有意義な時間となった。
- 特別支援の担任を初めてさせてもらう中で、基本的な教育課程などこれからの取り組みにつながる研修ができた。

「具体的な指導の視点と実践について」

- 活動ありきではなく、各教科等の力をつけることが大切であることが分かった。
- 児童生徒の実態に応じて個別指導計画も作成しており、すべての目標をクリアしなければいけないと欲張っていたが、中心課題は何か、その中心課題に焦点を当てて支援を行うことでより具体的な支援が可能になることがわかったので、今後その考え方で対応していきたいと思う。

「障害特性の理解とアセスメントについて」

- 知的や情緒の特性や支援方法を具体的にお聞きすることで、自校の学級の児童について当てはまることも多く参考になった。
- 神経発達障害群の種類について、発見の時期や保護者との関係の進め方を聴くことができ、とても勉強になった。質問紙によるアセスメントを確認してみたいと思う。行動パターンなど各教科の先生に共有することはやはりその子にとって大切なことだと再確認できた。

「研修会について」

- 研修会では、特別支援教育の必要性や大切さを改めて知ることができ、他校の先生たちとの意見交流では、ぜひ自分のクラスで実践したい内容もあった。

(課題)

- 他校の先生たちとの実践交流をしたり、児童の実態等の話を聞いたりする時間を設けてほしい。

